あんなことや、こんなこと

TOWNコミュ

能面をつけた福浦小児童

能「土蜘蛛」の一場面

2/4 本物の芸術に触れる

写真5 写真6

福浦小学校で実施された「文化芸術による子どもの育成事業 - 巡回公演事業 -」で、公益財団法人大槻能楽堂による能楽が公演されました。

この事業は、次代の文化の担い手となる子どもたちに優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供しようと文化庁の主催により行われています。今回の公演には福浦小児童をはじめ、船越小と中浦小児童のほか地域住民の皆さんが参加し、一流の舞台芸術を楽しみました。

この日は、能楽への理解を深めてもらおうと、来場者が能楽を体験する時間も設けられ、来場者が能楽特有の抑揚のある謡（うたい）をうたい、笛や小鼓、大鼓などの囃子（はやし）との共演に挑戦する場面や能面をつけた福浦小児童が、すり足や立ち姿など独特の所作を演じる場面がありました。

その後、能楽師により「土蜘蛛（つちぐも）」が演じられ、鑑賞した人たちは、平安時代の武将源頼光（らいこう）やその家来が蜘蛛の化け物を退治するという魅惑的な能楽の世界に引き込まれていきました。

2/3 豆をまいて鬼退治

写真4

春が来る季節の変わり目に豆をまいて邪気を追い払い、無病息災を願う風習「節分」。「魔(ま)を滅(め)っする」という言葉から、豆をまくようになったとする説もあるそうです。

町内各保育所にも招かざる客「鬼」が来て、園児たちは逃げ惑い、泣きながらも必死で「鬼は外、鬼は外」と連呼し豆をまきました。

本日！海日和!! vol.52「海のゆりかご」

ムチカラマツエビのペア

3月5日はサンゴの日である。サンゴは漁業や観光の資源となるだけでなく、多くの生き物を育む海のゆりかごとして、生物多様性を豊かに保っている。

水深20mほどの砂地に、海底からムチのように伸びるムチカラマツというサンゴが群生している場所がある。ここに潜るときには、サンゴの上で生活している小さなエビやカニを撮影するのを楽しみにしている。しかし、サンゴと同じ色をしていて、なかなか見つけることができない。その日も一本一本、くまなく探して、やっと1cmほどのムチカラマツエビを見つけることができた。写真を撮るときには一匹だと思っていたのだが、なんと下側にオスも写っていた。さすが擬態の名人、まんまとだまされてしまった。

この個性豊かなエビは、ムチカラマツなくしては生きていくことができない。サンゴを守るのは、これらの小さな生き物を守ることでもある。

（撮影地：横島）　愛南サンゴを守る会 西尾知照（ともてる）

写真1

1/22 おいしく健康づくり

食を通して健康づくりを推進しようと、町食生活改善推進協議会（尾﨑イトミ会長）主催による「あいなん食改味まつり」が、一本松山村開発センターで開催されました。

味まつりでは毎年、「主食」、「主菜」、「副菜」や「汁物」、「デザート」に分類して、必要な栄養素がバランスよく摂れるように工夫された料理が数多く用意されます。来場者は、あいなん五目ごはんやブリのオレンジ焼き、かぼちゃクッキーなど彩りも鮮やかな料理を、会話を弾ませながら楽しく味わいました。

写真2

1/25 すべって ころんで 柏小スキー教室

柏小学校と内海公民館共催によるスキー教室がソルファオダスキーゲレンデ（内子町）で行われ、児童45名と教職員や保護者など総勢約84名が参加しました。

最初は緊張した表情の子どもたちでしたが、徐々に滑り方のコツをつかみ、とても楽しそうにスキーを満喫しました。

写真3

2/4~13 いろんなミカンを食べたよ

本町の主要な農産物である柑橘を知ってもらおうと、町内5か所の幼稚園や保育所で農業支援センター主催の「柑橘学習会」が開催されました。学習会では、「愛南ゴールド」や「ブラッドオレンジ」など、約20種類の品種が紹介され、いくつかのミカンを試食しながら、品種ごとの生育状況や収穫時期について分かりやすく説明されました。

長月保育所では、山口愛里（あいり）ちゃん（5歳）が「いろんなミカンがあることが分かって楽しかった」と、満面の笑顔で話してくれました。